

はぐく 安吾を育んだ新潟・人・歴史

「私のふるさとの家は空と、海と、砂と、松林であった。そして吹く風であり、風の音であった。」

作家坂口安吾は、『石の思ひ』（1946年）のなかでこう語っています。その頃の新潟は、海まで遠い砂浜と、松林が広がっていました。坂口家という、良寛とも交流した先祖をもつ名家に生まれ、父は政治家であり、新聞社の代表でもありました。13人兄弟の12番目、季節で大きく表情を変える空を見つめながら、少年安吾は何を考えていたのでしょうか。

このたびは文壇デビューするまでの安吾の姿を、父仁一郎、兄献吉の生き方や新潟の街を通してみていただきたいと思います。



■坂口仁一郎(号・五峰) 1859年(安政6)―1923年(大正12) 64歳

衆議院議員として、憲政本党(のちに憲政会)に属し、重鎮として大隈重信、加藤高明の信任が厚かった。新潟新聞社長、新潟米穀株式取引所理事長をつとめる。漢詩人としても著名で、当時の政財界に多くの詩友をもつ。自ら書画をあらわす文人で、多くの印を収集し、印癖と称された。30余年を費やし、新潟の文化史ともいべき大著『北越詩話』(上下)をのこす。



■坂口献吉 1895年(明治28)―1966年(昭和41) 71歳

坂口仁一郎の長男。早稲田大学政経学部卒業。新潟新聞社、その後統合により新潟日報社となり、社長をつとめる。ラジオ新潟(のちにBSN新潟放送)社長。戦後すぐに新潟県美術展覧会(県展)を開催、新潟宝塚劇場再建、県民会館附美術博物館建設など新潟の文化活動に貢献した。父仁一郎から続く、會津ハートとの交流の深さはよく知られている。



■坂口安吾 1906年(明治39)―1955年(昭和30) 48歳

坂口仁一郎の五男。本名、炳五。東洋大学印度哲学科卒業。1931年(昭和6)『木枯の酒倉から』『ふるさに寄する讃歌』『風博士』を発表し、文壇にデビューする。敗戦に打ちひしがれていた日本人にとって、1946年(昭和21)に出された『墮落論』は、強い衝撃と新たな生き方を指し示すものとなった。純文学、エッセイだけでなく、歴史小説、伝奇物語、推理小説、ファルス、地理紀行など幅広い分野ですぐれた作品をのこす。

■主な展示作品

- 坂口仁一郎
北越詩話文人書画貼雑屏風 6曲 1双(新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵)、
『北越詩話』原稿類、詩稿、書画、新潟新聞関連資料、書簡、所蔵印 他
- 坂口献吉
油彩画(五峰肖像画、自画像)、額皿、色紙・短冊、安吾宛書簡、歌集、社報 他
- 坂口安吾
自筆原稿『世に出るまで』(東洋大学附属図書館所蔵)、書簡、同人誌、遺愛品 他



北越詩話文人書画貼雑屏風(6曲1双の内)
新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵



文芸誌「光」
『石の思ひ』初出誌

■関連催事

- ◇ 講演会 2月21日(土)
「坂口家の血脈」七北数人(文芸評論家)
 - ◇ おはなしと朗読 ―安吾が育った時代の新潟を聴く― 2月28日(土)
おはなし 「少年安吾が過ごした街」伊東祐之(新潟市歴史博物館 学芸課長)
朗 読 「ふるさに寄する讃歌」ほか 東村里恵子(フリーアナウンサー)
- 会場：新潟市歴史博物館 2F セミナー室
時間：午後1時30分～3時
定員：50名 (応募者多数の場合は抽選となります。ご了承ください)
締め切り：2月16日(月)必着
- ◇ 学芸員による展示解説会(申し込み不要)
毎週日曜日 午後2時から 企画展示室にて
(参加無料ですが、企画展観覧券が必要です。)

【申し込み方法】
往復はがきに、①氏名②住所③連絡先電話番号④参加関連催事名⑤参加人数を記入の上、新潟市文化政策課まで。
【お問い合わせ】
新潟市文化政策課 〒951-8550 新潟市中央区学校町通1番町602-1
TEL(025)226-2563 FAX(025)230-0450

INFOMATION

■観覧料(企画展観覧券で新潟市歴史博物館常設展示もご覧いただけます。)

	一般	団体(20名以上)
大人	600円	480円
大学生・高校生	300円	240円

■中学生以下は無料。団体20名以上は2割引

■開館時間：午前9時30分～午後5時
(観覧券の販売は、午後4時30分まで)

■休館日：月曜休館

■交通案内

- 新潟駅より：
新潟市観光循環バス(犬夜叉号)で15分
「歴史博物館前」バス停下車すぐ
新潟交通「昭和大橋・入船営業所行き」
バスで25分「歴史博物館前」バス停下車すぐ
- 車で：
新潟バイパス紫竹山ICより約15分
(駐車場：73台収容可能)
- 信濃川ウォーターシャトルが敷地脇より発着



〒951-8013 新潟市中央区柳島2-10
Tel:025-225-611 Fax:025-225-6130